

- (62) 子供らを くるめて すずめを 助ける。
 などで、うまくだますという意味である。「言いくるめる」という一つの動詞として使われることが多い。「くるめる」の意味の中心的なものはこれであると考えるのがよいかもしれない。もう一つ、
- (63) 何もかも くるめて これだけだ。
 (64) 全部 くるめて おいくら？
 などのように、ひとまとめにする、一括する、という意味もある。これは、「ひっくるめる」で置き換えられる。「ひっくるめる」にはこの用法しかない。
- (65) 皆の意見を ひっくるめて 結論を出す。
 (66) 品物は みんな ひっくるめて 百ポンドの値うちがある。
 (67) 汽車賃その他を ひっくるめて 旅費はいかほどになりますか。

3. まとめ

まず四語の用法を整理してみよう。「つつむ」と「くるむ」は「ある物がある物でおおう」という意味で使われる。「ひっくるめる」は、「ひとまとめにする」と

いう意味で使われる。「くるめる」はそのどちらの意味にも使え、そのうえ、さらに「うまくだます」という意味で用いられることもある。使用できる範囲が広いのであるが、あまり使われない。

次に、「つつむ」と「くるむ」について、簡単に整理しておく。

「つつむ」……おおい方が整然としている。

(全体をおおう。おおう物とおおわれる物が密着している。)

「くるむ」……おおい方にゆとりがある。

(全体をおおわなくてもよい。密着していなくてもよい。)そして、回転という要素を持つ。

以上、考察してきたのだが、包摂を表す動詞としては、他にも「まく」「かこむ」「かこう」「かぶせる」「おおう」など多くのものがあり、それらとの比較研究がなされなければならない。

言語経歴：1957年4月東京都武蔵野市に生まれ現在に至る。

はずす・はずれる

木 川 行 央

1. はじめに

- (1) 的を そらす。
- (2) 的を はずす。
- (3) 的を とる。

(1)と(2)を比較すると、いずれも矢等が目標たる「的」に合致しないという事態をあらわしているという点で一致する。一方、(2)と(3)は、「的」自体がその接触していた場所から移動させられるという事態をあらわしているという点で一致する。すなわち、「はずす」には、少なくとも二つの意義のあることが予想される。これについては、木川1978において、簡単に述べておいた。今回は、この「はずす」と自動詞「はずれる」という語を、「そらす」「それる」「とる」などと比較しながら、よりくわしくみていく。

2. 「はずす」「はずれる」と「そらす」「それる」

2. 1. 「はずす」「はずれる」と「あてる」「あたる」
 「はずす」「はずれる」の反義語は、それぞれ「あてる」「あたる」だといわれる。木川1978では、「あたる」

の意義を次の(i)(ii)のように考えた。

「あたる」;(i) Aが 目標物たるBに 合致することを示す。

(ii) Aが 固定されたBに 単に接触する。

(Aは移動して接触するもの、Bは接触をうけるものをあらわす。ただし、「接触」という意義特徴の規定によっては、(ii)における「固定」というBに関する特徴、「単に」という「接触」の方法に関する特徴も不必要になる。(木川1979 参照))

これと対応させると「あてる」の意義には次の二つが考えられる。

「あてる」;(i) Aを 目標物たるBに 合致させることを示す。

(ii) Aを 固定されたBに 単に接触させる。

「あたる」「あてる」の(i)にあたる例としては次のようなものがある。

- (4) 天気予報が あたる。

(5) クジが あたる。

(6) 矢を 的に あてる。

一方、(ii)にあたる例としては次のようなものがある。

(7) 窓に 雨が あたる。

(8) ズボンに つぎを あてる。

「はずれる」「はずす」が「あたる」「あてる」の反義となるのは、このうちの(i)の意味に対する場合である。

(9) 天気予報が はずれる。

(10) クジが はずれる。

(2) 的に はずす。(前出)

この反義関係は、「おす」に対する「ひく」の場合のように、「おす」の否定「おさない」が必ずしも「ひく」にならないのとは異なり、この場合の「あたる」「あてる」の否定「あたらない」「あてない」と「はずれる」「はずす」の論理的な意味は一致する。したがって、この「はずれる」「はずす」の意義は、次のように仮定される。

「はずれる」;(i) Aが 目標物たるBに 合致しないことを示す。

「はずす」;(i) Aを 目標物たるBに 合致させないことを示す。

なお、この類の表現においては、自動詞「あたる」「はずれる」で表現される場合が多い。木川1978では、「あたる」と「あてる」には、それぞれ対応する用法がない場合もあるが、自動詞と他動詞という文法的な差の反映以外に、重要な意味上の差はないとした。これは、「はずれる」と「はずす」においても同じである。

2. 2. 「はずれる」「はずす」と「それる」「そらす」

「はずれる」「はずす」と「それる」「そらす」が類義関係となる場合としては、まず「はずれる」「はずす」が「あたる」「あてる」の各々(i)の意味と反義関係にある場合の用法が考えられる。

(11) 矢が 的に あたる。

(12) 矢が 的に はずれる。

(13) 矢が 的に それる。

しかし、「はずれる」「はずす」と「あたる」「あてる」とは反義関係にあるが、それに対応する「それる」「そらす」の用法がない場合がある。

(4) 天気予報が あたる。(前出)

(9) 天気予報が はずれる。(前出)

(14) *天気予報が それる。

(15) 試験の山を あてる。

(16) 試験の山を はずす。

(17) *試験の山を そらす。

森田1977に指摘があるように、「それる」は、その軌道が問題となる語である。

進行方向が狂って、軌道にずれを生じる場合は「それる」となる。(p.28)

したがって、上の「天気予報」や「試験の山」のように、その経路は関係なく、あらかじめ行なった予想とその結果のみが問題になる場合には、「それる」「そらす」は用いられない。

一方、次のように、対応する「あてる」「あたる」の用法はないが、「はずれる」「はずす」と「それる」「そらす」が類義関係になる場合もある。

(18) 本道を はずれる。

(19) 本道を それる。

なお、上の文の「を」を「から」におきかえることもできる。

(20) 本道から はずれる。

(21) 本道から それる。

また、「それる」は移動していく先を「に」格であらわすこともある。これに対し、「はずれる」は「に」格をとりにくい。

(22) 本道から 脇道に それる。

(23) ?本道から 脇道に はずれる。

これは、「それる」がその経路を問題にしているのに対し、「はずれる」が「本道」との関係のみを問題にするという差と考えることができよう。さらに、(21)、(22)の「それる」は、「あたる」との比較でみてきた例と同じ意義と考えられるのに対し、(20)・(23)の「はずれる」は、すでに「本道」におかれているものと「本道」の関係を示すものである。すなわち、(12)を例にとれば、「的」が目標物であり、「矢」と「的」が、接触等の関係を「はずれる」前後いずれにももたなかったという点で異なる。このような「はずれる」は3.で述べる用法に含まれる。

なお、(13)のような場合、「的」は、その経路ではなく目標物である。すなわち、経路は表現されていないとも考えられる。しかし、「それる」を上述のように経路に視点をおいた語とすると、この場合は、目標物たる「的」と「矢」の発射点の間の経路を「的」であらわしたと考えられる。このように考えると、「はずれる」の場合も、(12)は、目標物たる「的」と「矢」の関係ではなく、「矢」の発射点から「的」への経路と「矢」の関係をあらわすとも考えることも可能である。

たしかに、この例に関しては、このように解釈することもできようが、(9)や(10)のような例まで同じく解釈できるかどうかは疑問である。したがって、2. 1. で仮定した「はずす」「はずれる」の(i)の意義はたておく。

他に、これにあたる例としては次のようなものがある。

(24) ねらいが はずれる。

(25) ボールを はずす。

(26) タイミングを はずす。

3. 「はずす」と「とる」

3. 1. 辞書の記述

2で述べた意味以外の「はずす」「はずれる」の意味は、「かける」や「はめる」などの語との対応という形で、辞書には示されている。

「はずれる」 1. はまっていたものがぬけて出る。
はなれる。

「はずす」 1. はめてあるものを取りはなす。

(以上『外国人のための基本語用例辞典第二版』)

「はずれる」 ①正常の場所、または今までの場所から離れる。④はまっている、または掛かっているものなどが、取れて離れる。

「はずす」 ①正常の場所または今までの場所から取り去る。④はまっているものなどを、取って離す。

(以上『岩波国語辞典第三版』)

ここでは、まず他動詞「はずす」と反対の動作と考えられる「かける」「はめる」等との関係を見、その後辞書の説明にも用いられ、類義語の一つと考えられる「とる」との比較を行なう。

3. 2. 「はずす」と「かける」「はめる」

「かける」「はめる」は、ともに、対象物を、ある場所に、一時的に接触させることをあらわす語である。いいかえれば、対象物がその場所から分離することを予想した接触とでもいえようか。この点「はる」等の語と異なる。

3. 1. でみたように、「はずす」「はずれる」の説明には、「かける」「はめる」という語が用いられているが、「はずす」の逆の動作をあらわす場合すべてに、「かける」ないし「はめる」が用いられるわけではない。ここで、「はずす」とその逆の動作をあらわすと考えられる例をあげる。

(27) ボタンを はずす。

(28) ボタンを かける。

(29) ボタンを はめる。

(27)~(29)は、「はずす」に対して、「かける」「はめる」ともに用いられる例である。

(30) タスキを はずす。

(31) タスキを かける。

(32) ×タスキを はめる。

上の例は、「はずす」に対し「かける」だけが用いられる例である。この類には、他に「エブロン」「(壁に) 絵」などを対象物とする場合がある。

(33) 手袋を はずす。

(34) ×手袋を かける。

(35) 手袋を はめる。

上の例は、「はずす」に対して「はめる」だけが考えられる例である。この類には、他に「指輪」などを対象物とする場合がある。なお、この場合「つける」も「はずす」の逆の動作をあらわすと考えられる。

(36) ネクタイを はずす。

(37) ×ネクタイを かける。

(38) ×ネクタイを はめる。

(37)・(38)はともに、装身具として首に結ぶ場合である。この例は、「かける」「はめる」ともに用いられないものである。この場合には、「しめる」や「つける」が用いられる。同様な例としては、「裯」などがある。

(39) 受話器を はずす。

(40) ?受話器を かける。

(41) ×受話器を はめる。

この場合も、「かける」「はめる」ともに適当な表現ではなく、「おく」が用いられる。しかし、「おく」の逆の動作は、多く「はずす」ではあらわされない。

(42) 本を 机の上に おく。

(43) ×本を 机の上から はずす。

なお、この他にも「はずす」動作が「かける」「はめる」以外の語のあらわす動作と対応する場合は多い。

(44) ジャックを はずす。

(45) ジャックを さす。

(46) シートを はずす。

(47) シートを かける。

(48) シートを かぶせる。

(49) マスクを はずす。

(50) マスクを かける。

(51) マスクを あてる。

このように、「かける」「はめる」をはじめとする語は、いずれも、「あてる」の(i)に対する「はずす」の

(i)のような反義関係をつくらない。すなわち、これらの語は、動作として逆の行為をあらわすのみであり、「はずす」という語の意義としての反義とはなりえない。

しかし、上述のように、「はずす」前の状態と「かける」または「はめる」後の状態には共通する部分が考えられる。したがって、両者に同じ意義特徴が与えられる可能性は大きい。さらに、身体につけるものに関しては、「はずす」逆の動作が「する」で表現されるものが多い。たとえば、「エプロン」「タスキ」「メガネ」「ネクタイ」「指輪」「褌」など。すなわち、「きる」や「はく」など身体につける場合に主に用いられる語と共起しない対象をあらわす語には、「はずす」「する」ともに用いられる場合が多いということである。したがって、このような「する」の意義にも「はずす」や「かける」「はめる」と共通の部分があるかもしれない。

3. 3. 「はずす」と「とる」

3. 2. であげた「はずす」の例は、動詞を「とる」におきかえることができる。

- (27) ボタンを はずす。(前出)
- (52) ボタンを とる。
- (30) タスキを はずす。(前出)
- (53) タスキを とる。
- (33) 手袋を はずす。(前出)
- (54) 手袋を とる。
- (36) ネクタイを はずす。(前出)
- (55) ネクタイを とる。
- (39) 受話器を はずす。(前出)
- (56) 受話器を とる。
- (44) ジャックを はずす。(前出)
- (57) ジャックを とる。
- (46) シートを はずす。(前出)
- (58) シートを とる。
- (49) マスクを はずす。(前出)
- (59) マスクを とる。

(27)と(52)以外のペアは、ほぼ似た事態をあらわしている。(27)と(52)の差について考えてみよう。まず、(27)は、ボタン穴を通してかけられたボタンを、ボタン穴を再び通すことによって、ボタンとボタンのついていない側(すなわちボタン穴の側)との接触が解かれることをあらわす。一方(52)は、ボタンとボタンのついていないもの自体との接触が解かれることをあらわす。(なお、ボタンのつけ方によっては、(27)と(52)が同じ事態をあらわす場合も考えられる。)すなわち、「とる」が「を」

格で示される物自体を、それが接触しているものから離すことをあらわすのに対し、「はずす」は、「を」格で示されるものとそれが接触しているものの一時的な接触を解除することをあらわす。この節でとりあげた文のうちの(27)と(52)以外の例文についていえば、その「を」格で示されているものとそれが接触している部分の関係は一時的とも考えられるものである。したがって、「はずす」「とる」いずれも用いることができ、同様の状況をあらわすことになる。これは次のような例からもわかる。

(60) ロボットの足を はずす。

(61) ロボットの足を とる。

(62) *バッタの足を はずす。

(63) バッタの足を とる。

「ロボットの足」を、ナットなどで一時的に接触させたものとみれば「はずす」が用いられ、そのような限定がない(あるいは表現上重視されない)とみれば「とる」が用いられる。しかし、「バッタの足」は、「バッタ」の一部として本体につながるものであるとみなされるので、「はずす」は用いられず「とる」が用いられる。さきに、(27)と(52)が同じ意味となりうるのは、ボタンのつけ方が関係すると述べたのはこの点にある。すなわち、もし「ボタン」とそのつけられた場所の接触が一時的なものとみなされれば、「はずす」が「とる」と同じ意味をもつことになるのである。

また、人間の脱衣行為をあらわす動詞についても、これと同じ観点で説明できるかもしれない。すなわち、「はずす」の逆の動作とならない「きる」「はく」などは、単に一時的な接触を生じさせるのではなく、衣服を身体の一部とする、とでもいうべき行為ではなからうか。これは、

(64) シャツを はぎとる。

(65) 着物を はぐ。

のような、果実に対する皮など本体と本来一体となっているものを分離させることをあらわす動詞が用いられることがありうるという点からも考えられる。ただし、「褌」など装身具以外でじかに身につけるものなどでも「はずす」が用いられる場合があり、なお考察する必要がある。

ところで、これまで「一時的な接触」という表現を使ってきたが、これも適切ではない。

(66) 車をおおっているシートを はずす。

(67) ?顔をおおっているハンカチを はずす。

(66)はよいが、(67)はいえるかどうか疑問である。

(68) 壁にかけてある絵を はずす。

69) ?くぎにかけてある帽子を はずす。

68)と69)に関しても同様。ここで「接触」を「固定」と修正する。これにより、単に置かれたり、掛けられたりしているものの接触を解除する場合が除かれる。すなわち、「はずす」前提として、何らかの形で位置的にも接触状態においても固定されていることを必要とするわけである。しかし、なおこの語にもあいまいさが残る。たとえば、2.で18)や20)の例を、ここで説明した意義に含めるとしたが、「車」と「本道」が固定されているとは考えにくい。この点を含めた修正は今後の問題とし、以下ではこの語を用いることにする。

なお、文献などにみられる例には、「はずす」以前の状態を「固定」とは考えにくいものもある。

(70) そんな他愛のないことを言ひ合ひながら、その間ちう節子は私の肩から手をはづさずに、(中略)私に靠れかかってゐた。(堀辰雄「風立ちぬ」岩波文庫p.83~84)

(71) 私は銃を肩からはづし、斜めに構へて、野に歩み入つた。(大岡昇平「野火」新潮文庫p.71)

(72) 安吉は釘から外ずして皺くちやのズボンをシャツの上にはいた。(中野重治「むらぎも」新潮文庫p.133)

これらは、「一時的な固定」という特徴の仕方の差、あるいは「おく」などの行為の逆の行為をあらわす語がないための臨時的な用法と考えられる。

ここでは「はずす」だけをとりあげたが、「はずれる」は、「はずす」に対する自動詞であり、基本的には同じ特徴を共有する。

3. 4. 「はずす」「はずれる」：まとめ

3. 3. であげた用法以外の用法をあげ、まとめを行なう。

まず、「はずす」「はずれる」の用法としては次のようなものもある。

(73) 彼を メンバーから はずす。

これも、一時的に固定されていた「彼」と「メンバー」の関係がとかれたと考えられる。

(74) 彼は 席を はずした。

これを、「彼」と「席」が一時的に固定されたものと考えられることもできようが、むしろすでに「席を はずす」でイディオム化していると考えた方がよいかもしれない。なお、この場合対応する「はずれる」の用法はない。

(75) 車は 町を はずれた。

この用法に関しては、今説明ができない。これは対

応する「はずす」の用法がない。

ここで、「はずれる」「はずす」の意義を次のように仮定する。

「はずれる」;(ii) あるものが 一時的に固定された場所から 分離する。

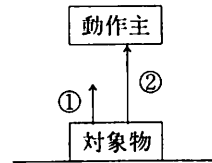
「はずす」;(ii) あるものを 一時的に固定された場所から 分離させる。

「分離する(させる)」という特徴については述べなかったが、概略「接触状態がとかれる(接触状態をとく)」ことを意味する。

3. 5. さいごに

「とる」という語については、ここではこれ以上くわしく述べない。この語には、上で述べてきた用法以外に多くの用法がある。そして、その用法はここで中心とした「はずす」「はずれる」の意味・用法からはなれてくる。

「とる」には、おおむね次のような状況が考えられるよう。



すなわち、①は意味の中心が、接置されている場所から分離させられることにあり、②は分離よりも、動作主へ向かって移っていくことにあるということである。上でとりあげてきた例は、このうち①にあたる。②にあたる例としては次のようなものがある。

(76) 塩を とってくれ。

(77) 本を 手に とる。

52)~59)の例は、ややあいまいな文である。そこで用いられた「とる」は、「はずす」とほぼ同じ状況をあらわす場合があると同時に、②の状態すなわち動作主の方向へ移動していくという点に注目する場合もありうる。①と②は、明確にわけられるものではなく、段階的なものと考えられる。これがどのように解釈されるかは、今後の問題として残る。他の接触状態をとくことをあらわす語との比較をしながら考えたい。

言語経歴：1955年3月 兵庫県西脇市生 0歳~18歳 西脇市 18歳~22歳 静岡市 22歳~ 東京都大田区